

## 1 楽器の誕生

### 《楽器の起源 器楽の始まり》

ヒトは二足歩行によって両手が解放され、また発声器官の発達をみたという。これが人類史における、道具と言葉の発生のきっかけだそうである。

言葉はそれ自身にリズムや音律を内包し、やがて歌が生まれた。さらにその歌に合わせて自分の身体を打つ、たとえば手拍子などから、最初の伴奏楽器としての打楽器の誕生を想像することができる。また歌われる人声そのものの模倣として、単純な笛、たとえば草笛などから、管楽器の誕生も想像することができる。もっとも原初的な弦楽器となる口琴 (Jew's harp) などは、今も世界中に見ることができる。ヒトは“言葉”を語り歌い、さらに楽器という不可思議な“道具”を生み出した。

### 《旋律楽器の誕生》

Sachs (ザックス)<sup>1)</sup>によると、歌はパトス (感情) から生まれた歌 = Pathogenicな歌と、ロゴス (言葉) から生まれた歌 = Logogenicな歌とに分類されるという。恋愛歌など叙情的な (喜びや悲しみを歌う) 歌は、Pathogenicと呼び、教典をとらえたり物語りなど叙事的な (コトバを語る) 歌を、Logogenicと呼ぶ。

Pathogenicな歌、日常的な喜びや悲しみを歌う時、人声は人の感情をもっとも豊かに表現する“楽器”であろう。それに反して、Logogenicな歌、宗教的意識・精霊崇拜の意識の中で祈りの言葉を語り歌う時、人は人声のもつ生々しさから遠ざかりたい欲求もあるであろう。

伊福部昭<sup>2)</sup>は、このLogogenicな音楽の形成過程に旋律楽器誕生のきっかけを見、以下のように述べている。

---

<sup>1)</sup> Curt Sachs (1881~1959) ドイツの音楽学者、楽器学者、民族音楽学者。

<sup>2)</sup> 伊福部昭 (1914~) 日本の作曲家。

「…時代が降るに伴って、この種の精霊崇拜の意識は、次第にその<sup>3)</sup>度を加え、雰囲気のみならず、これに携わる人間をも、この世ならざるもの、即ち、人間臭から遠ざかることの必要に迫られ、人間の声音を代行し得るような道具、即ち旋律楽器の創案に努力が向けられることとなった。云い換えれば、音色的には人間臭から離れ、運動的には人声を模倣すると云う相反する探求が行なわれることとなるのである。このようにして、われわれの祖先は、次々に、異なる様式の新たな楽器を創案していった…」(管絃楽法 上巻)

ここには屈折した人間感情の欲求による、旋律楽器の発明が述べられている。

しかし、歌のすべてが宗教的行事に伴って発達したわけではない。『人間臭から遠ざかることの必要に迫られ』た事のみが、旋律楽器創案の動機とは言えないかもしれない。むしろ人間の「表現」というものの根幹にある、対象をそのまま写すのではなく「象徴」しようとする意欲、あるいは「フィクション(虚構)」によって真実をより強く語ろうとする意欲、または「婉曲」がある種洗練された表現であるという意識等が、人間の声音に似て非なるこの旋律楽器の多様な発達においても感じられるのである。

#### 《楽器の多様性》

しかしまた、楽器の全てが旋律楽器であるわけではない。律動楽器は、屈折した人間感情に基づくというよりも、むしろ人間の心拍のようなメカニカルな生理に深く関係するものであろう。また鍵盤楽器には、旋律と伴奏を一人で演奏する機能重視の面も感じられる。さらに現代の電子楽器においては、楽器自身が他の楽器を模倣する傾向までみられる。

このように楽器と人間の関係には、多様な人間欲求の側面がある。と同時に、あくまで楽器も人間の生み出した“道具”の一つであるという、フィジカルな側面も存在する。楽器は常に、その物質的・音響学的特性によって規定されているからである。次にかかげる楽器の分類を見ると、人間がいかに多様な発音

3)

## 1 楽器の誕生

原理をもって、またいかに多彩な材料をもって楽器を造ってきたか、改めて感嘆させられる。

これらの楽器はすべて、それぞれの楽器製作者達の探求によって磨き上げられてきた見事な“道具”であるが、楽器の音域・音色・運動能力はそれぞれ異なっている。それぞれに得手・不得手な面がある。つまり楽器の多様性とは、一面個々の楽器の機能の不完全さにほかならない。それらをよく知りつつ楽器それぞれの特性としてとらえ直すところから、楽器に対する真の理解が始まるのである。

### 《楽器の分類》

○Hornbostel (ホルンボステル)<sup>4)</sup> とSachsの楽器五分類法 (1914)

気鳴楽器…笛、ラッパ、オルガン

体鳴楽器…ベル、ゴング、木琴、シンバル

膜鳴楽器…太鼓、ドラム

弦鳴楽器…リュート、ギター、ハープ、ヴァイオリン、チェンバロ、ピアノ

機械・電気楽器…オルゴール、エレクトリック・ギター、シンセサイザー

○伊福部昭「管絃楽法」のオーケストラ楽器の分類 (1953)

弦楽器群…Violino, Viola, Violoncello, Contrabasso

木管楽器群…Flauto, Oboe, Corno Inglese, Clarinetto, Fagotto

金管楽器群…Corno, Tromba, Trombone, Tuba

打楽器群

膜質打楽器…Timpani, Gran Cassa, Tambourine

木質打楽器…Xilofono, Wood-Block

鉦質打楽器…Glockenspiel, Piatti, Tam-Tam, Celeste

編入楽器…Piano-forte, Harp, Mandolin, Organ, Saxophone, 人声

---

<sup>4)</sup> Erich Moritz von Hornbostel (1877～1935) オーストリアの比較音楽学者。